

MMTと大学入試共通テスト

大谷 誠一(平塚市立山城中学校)

浅川 俊夫(東北福祉大学)

秋本 弘章(獨協大学)

MMTの特徴

- CBT
- 4者択一
- 1問ずつ独立した問
- 広範な出題範囲

国内大会の出題傾向

		2023	2022	2021
分野番号	分野名	出題数	出題数	出題数
1	気候・気候変動	6	6	5
2	災害・災害対策	4	2	2
3	資源・資源管理	2	3	4
4	環境地理・持続可能な開発	2	2	2
5	地形・景観・土地利用	9	10	10
6	農業地理・食糧問題	3	7	5
7	人口・人口変化	5	4	2
8	経済地理・グローバルゼーション	5	2	6
9	開発地理・空間的格差	3	3	2
10	都市地理・都市再開発・都市計画	1	3	2
11	ツーリズム・交通	3	2	3
12	文化地理・地域的アイデンティティ	3	2	3
13	その他(地図技能など)	4	4	4

国際大会の出題傾向

	2014	2015	2016	2017	2018	合計	比率	2022	比率
1 気候・気候変動	3	3	8	2	4	20	10	2	5
2 災害・災害対策	5	6	1	4	2	18	9	2	5
3 資源・資源管理	3	2	1	3	2	11	5.5	3	7.5
4 環境地理・持続可能な開発	3	4	6	6	5	24	12	4	10
5 地形・景観・土地利用	4	8	7	3	7	29	14.5	6	15
6 農業地理・食糧問題	2	2	3	1	1	9	4.5	1	2.5
7 人口・人口変化	3	3	1	4	4	15	7.5	4	10
8 経済地理・グローバル化	3	1	2	1	3	10	5	4	10
9 開発地理・空間的格差	1	4	2	1	1	9	4.5	2	5
10 都市地理・都市再開発・都市計画	5	1		3	4	13	6.5	4	10
11 ツーリズム・観光管理	1	4	2	2	3	12	6	1	2.5
12 文化地理・地域的アイデンティティ	2	1	1	4	2	10	5	2	5
13 その他	5	1	6	6	2	20	10	5	12.5
	40	40	40	40	40	200		40	

自然地理が約50% 人文地理が約40%

MMTと共通テストの共通点と相違点

共通に必要とされる事項

- 資料を読み解く地理的スキル
- 基礎的な地理的知識

相違点

- 英語での出題 地理用語の英語表現
- 問題を読んでから解答までの思考過程

MMTの1問の解答時間1分

→複雑な資料操作は難しい

- 地学分野の出題 国際的な地理教育の内容に対応

英語での出題

Q48 Choose the disasters type that could not occur at the location shown in the photo.

- ① Pyroclastic flow
- ② Debris flow
- ③ Snow melting type lahar
- ④ Inland water flooding



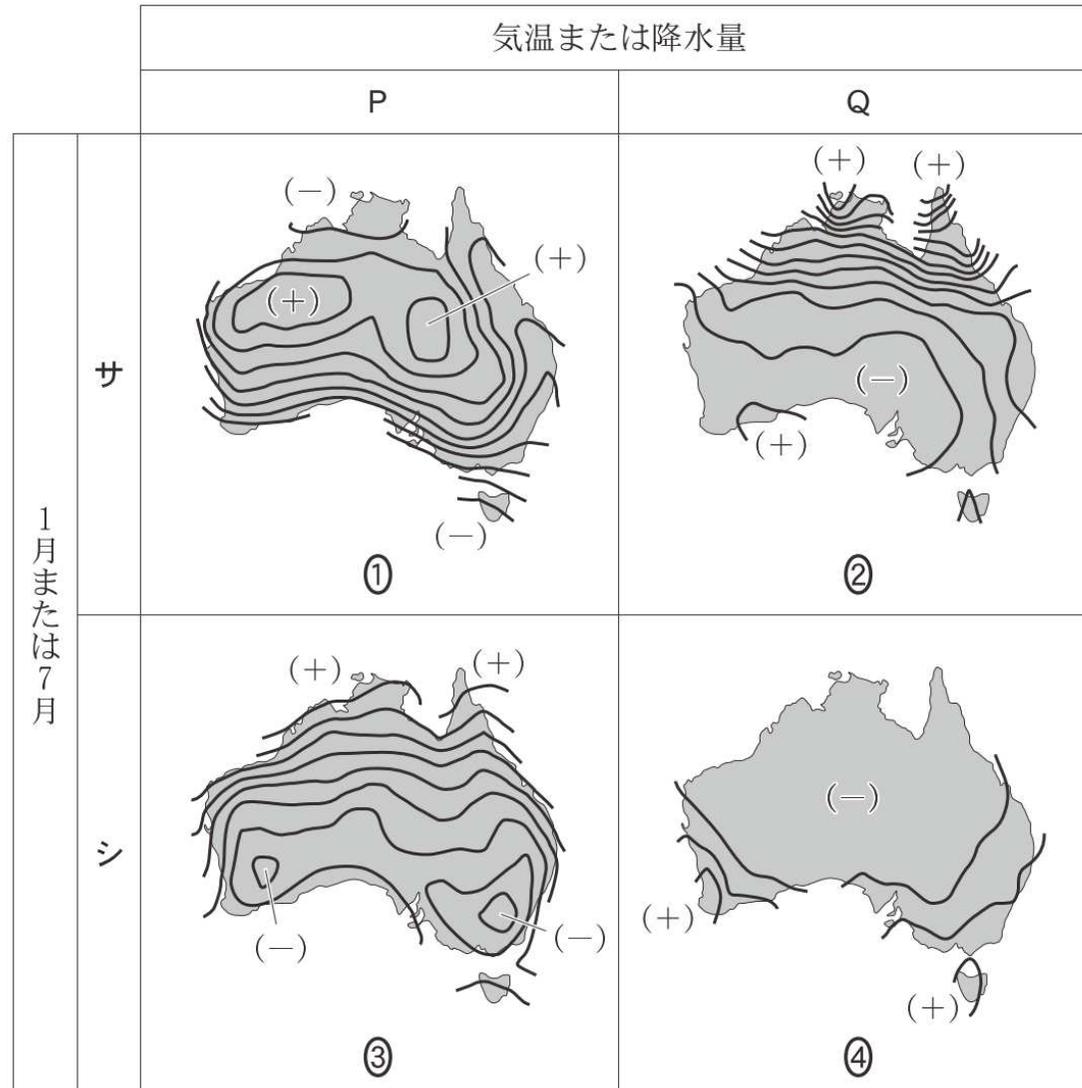
Q43 The figure shows the location of an industry. Which of the following is the most appropriate factor for such location?



- ① Close to large consumption areas.
- ② Close to ports convenient for importing and exporting.
- ③ Proximity to Universities which is advantageous for product development.
- ④ Close to raw material production.

問 4 次の図 4 は、オーストラリアにおける 1 月の気温、1 月の降水量、7 月の気温、7 月の降水量のいずれかを等値線で示したものである。図 4 中の P と Q は気温と降水量のいずれか、サとシは 1 月と 7 月のいずれかである。1 月の気温に該当するものを、図 4 中の①～④のうちから一つ選べ。

4



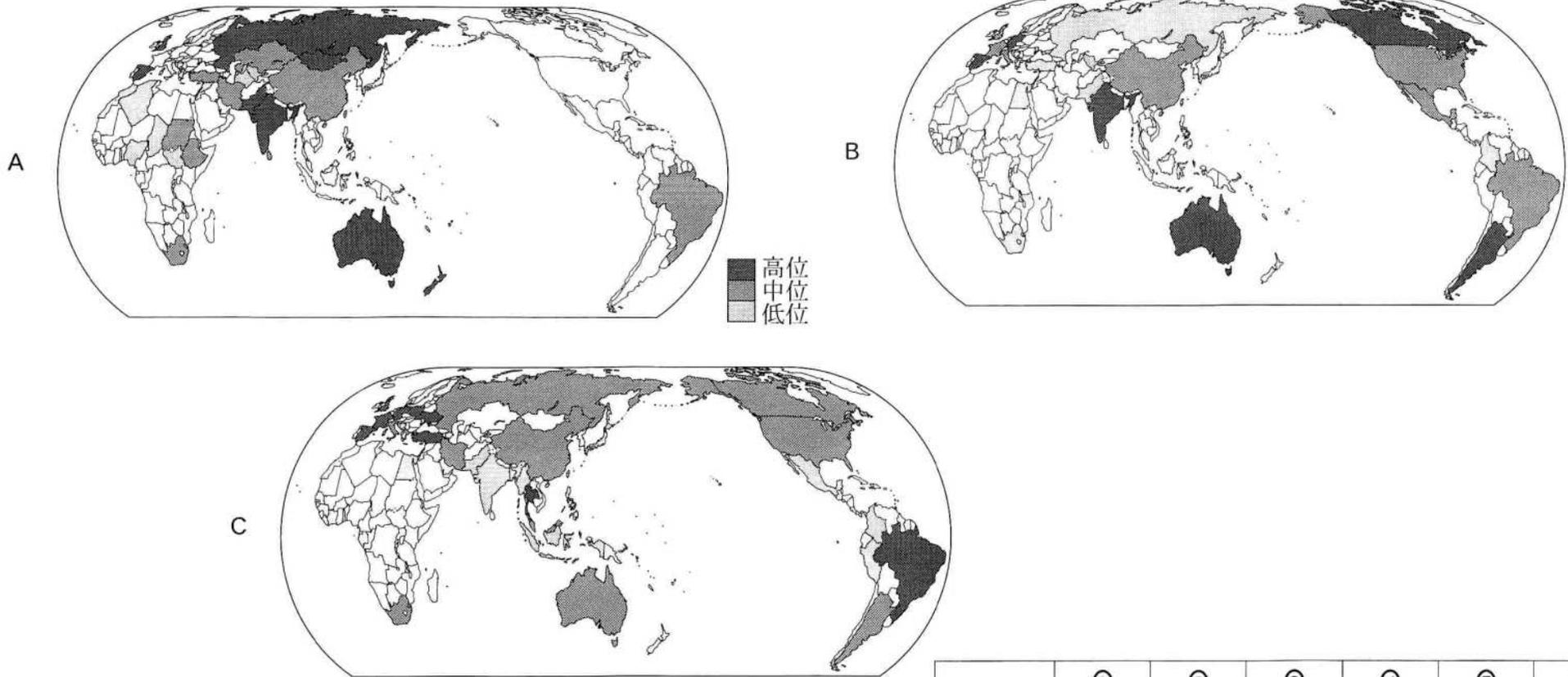
問21 次の図は、2021年1月、4月、7月、10月のいずれかの植生の様子を示した画像である。7月のものを選び。

出典: Google Earth Engine 地球観測衛星データ集



問 4 後の図 4 は、いくつかの食肉について、世界に占める生産量が 1% 以上の国・地域における生産量に占める輸出量の割合を示したものである。図 4 中の A ~ C は、牛肉、鶏肉、羊肉のいずれかである。品目名と A ~ C との正しい組合せを、後の①~⑥のうちから一つ選べ。

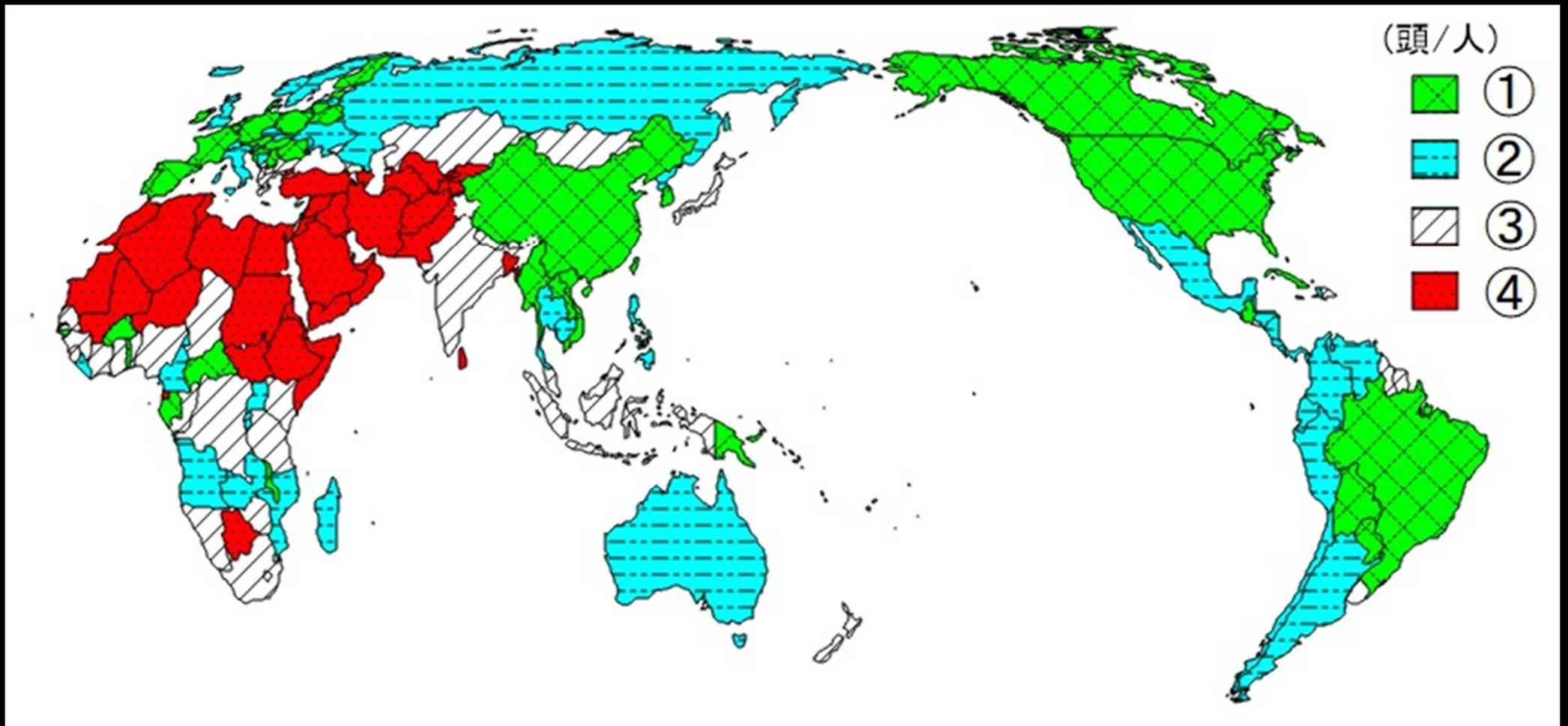
11



加工品などを含む。牛肉には、水牛、ヤクなどの肉を含む。
統計年次は 2019 年。FAOSTAT により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
牛 肉	A	A	B	B	C	C
鶏 肉	B	C	A	C	A	B
羊 肉	C	B	C	A	B	A

問7 図は各国の1人当たり豚の頭数を4つの階級に区分したものである(2019年)。1人当たり豚の頭数が一番多い区分はどれか。



出典:FAOSTATにより作成

第3問

【会話】

問 3 カヨルさんは、1980年代に転職にともなって鹿児島県へ戻った。次の図3は、カヨルさんが現在住んでいるある地方都市の様子を示したものである。また、後の会話文サ～スは、図3中の地点D～Fのいずれかの地点における、周辺の景観について話し合ったものである。D～Fとサ～スとの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 16



地理院地図により作成。

図 3

サ

カヨル 「1980年代以前から幹線道路が整備されていたけれど、2000年代前半までは、周辺には水田や畑が広がっていたんだ」
 ミノル 「現在は、道路沿いに全国チェーンの店舗がみられるよ。店舗には広い駐車場があるね」

シ

カヨル 「1980年代以前は、水田や畑が広がっていたけれど、近年は市内でも人口が大きく増えている地域の一つなんだ」
 ミノル 「現在は、開発が進んで住宅が増えているね」

ス

カヨル 「1980年代中頃までは、百貨店やスーパーマーケットがあった、大変にぎわっていたんだ」
 ミノル 「現在は、自動車は走っているけれど人通りは少ないね。シャッターが閉まったままの店舗もあるよ」

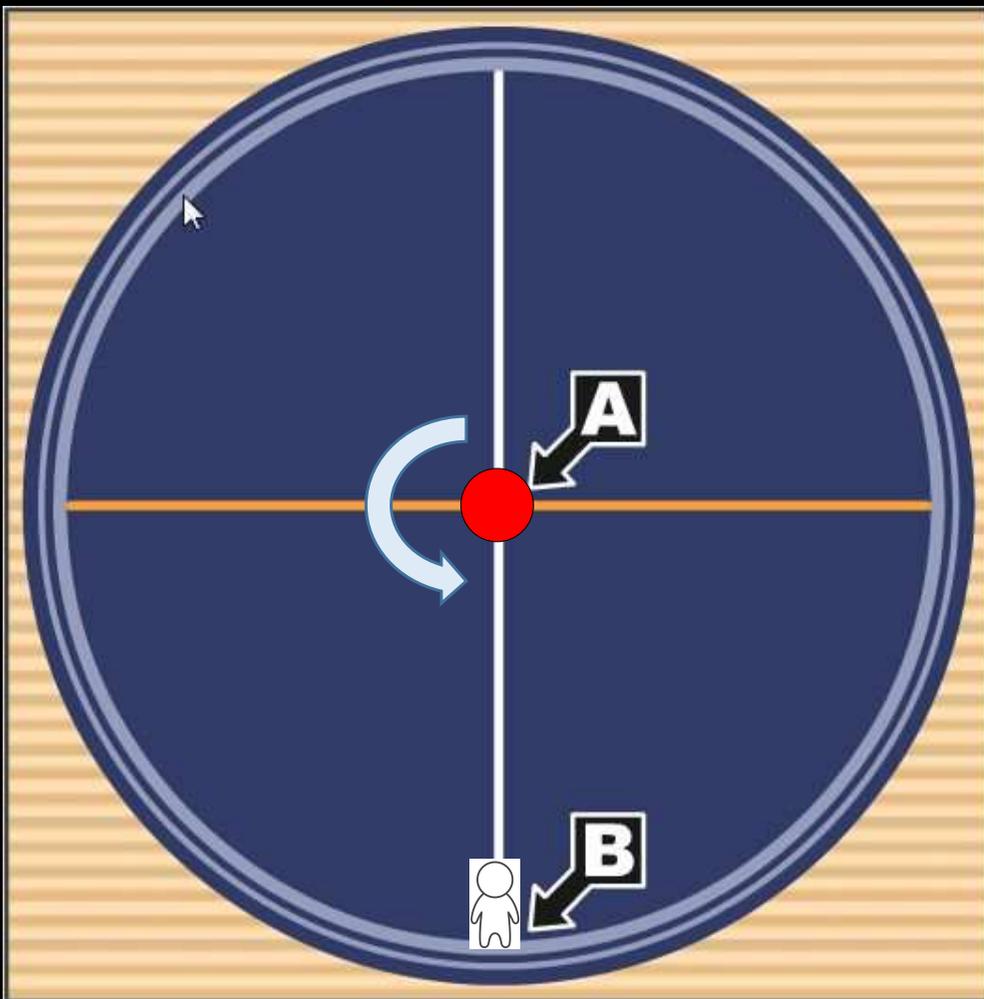
	①	②	③	④	⑤	⑥
D	サ	サ	シ	シ	ス	ス
E	シ	ス	サ	ス	サ	シ
F	ス	シ	ス	サ	シ	サ

問38 この写真は2004年に撮影されたものである。撮影された場所は①～④のどこか。



地学分野の出題

問32 大規模な風の向きなどに影響するコリオリの力を理解するため、次のような思考実験を行った。中心AからBに向かって転がされた球は、円盤上のBに立つ観察者からどのような動きをするように見えるか。次の①～④のうちから適切なものを選び。

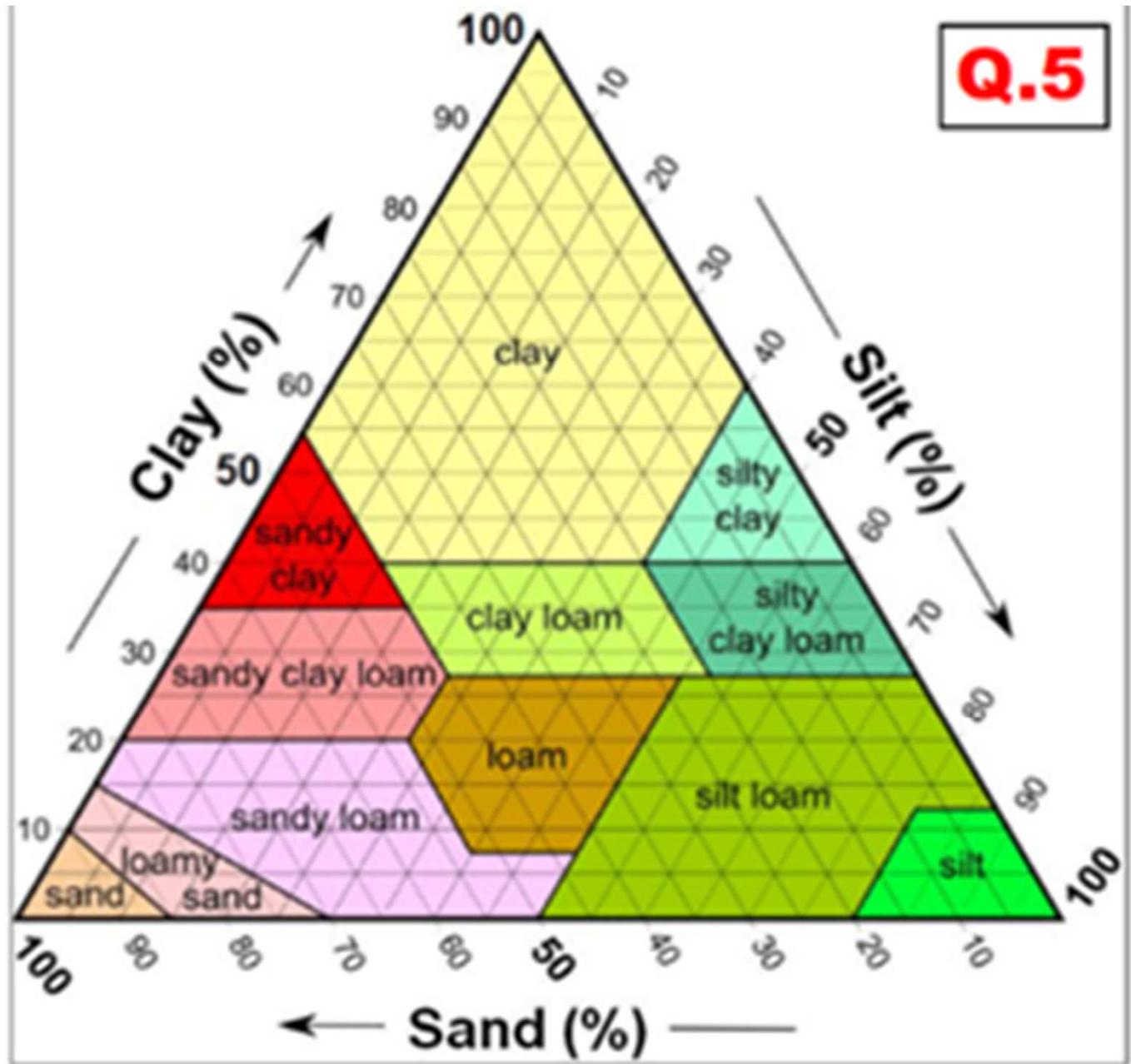


- ① 真っ直ぐに向かってくる。
- ② 左右に揺れながら向かってくる。
- ③ 近づくにつれて右にそれていく。
- ④ 近づくにつれて左にそれていく。

Q.5

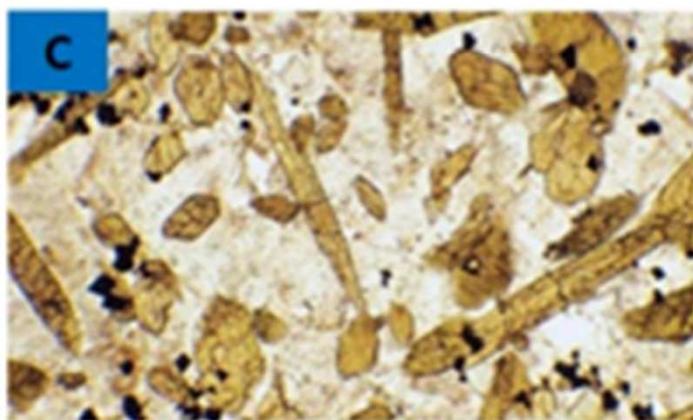
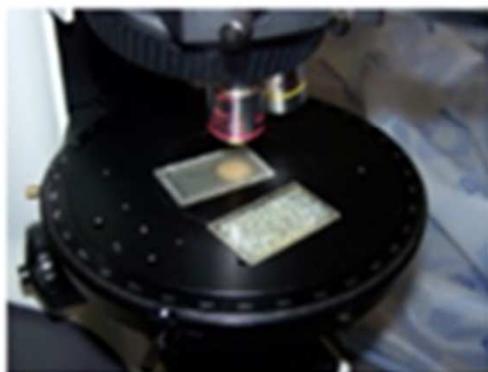
Which soil type contains 20% clay, 40% silt and 40% sand?

- A. clay loam
- B. loam
- C. sandy loam
- D. silt loam



Q 23

Microscope images (so called thin sections) from 4 different types of rocks.
Which image is showing a metamorphic rock?



.51 image A

.29 image B

.09 image C

.12 image D

「地理オリンピックと中学・高校地理教育」

発表 2 「マルチメディア試験と大学入学共通テスト」

最初に出題の形式面から両者を比較したい。共通テストは試験時間 60 分で 30 問程度の問題が出題される。マークシート形式で、多くは 4 択問題である。また、写真や地図、統計図表(以下、地理資料)を活用した出題が大多数を占めるのも大きな特徴である。例えば、2023 年 1 月本試験地理 B では、31 問中 18 問が 4 択であり、すべての小問で地理資料が活用されている。一方、地理オリンピックのマルチメディア試験(以下 MMT)は試験時間 60 分で 50 問、CBT 形式で全問題が 4 択となっている。また、ほとんどの問題で地理資料が活用されている。つまり形式的な面で、両者は極めてよく似ている。ただし MMT は CBT (コンピュータを用いた試験)で、問題はディスプレイに投影され、1 分で切り替わる点と英文問題が 2 割含まれる点については注意が必要である。

次に内容についてみてみると、共通テストは授業場面を設定した大問や探究的な大問など、大問構成に特徴がある。一方、MMT は小問単位で大問構成ではない。ここでは小問単位にしぼり、出題内容を比較してみたい。

どちらの問題も、資料を読み取る地理的スキルが必要で、その読み取り内容とこれまで学んできた地理的知識とを総合的に考え合わせて解答を導く形式といえる。したがって、地形図の読図や統計レベルの読解力は必須である。また、教科書レベルの用語に関する概念的知識はおさえておきたい。細かな地理的知識は必要としない。むしろ「ヒートアイランド現象」とか「都市化」というような地理の概念を、様々な出題に当てはめ活用できるようにする学習法が望まれよう。

このように両者の出題内容は類似しているが地理的知識に関する問はやや MMT の方が多い。また「問題を読んでから解答までの距

離(思考過程)」が短いといえる。それは MMT の問題は 1 つの画面におさめられており、1 分で問題が切り替わるためである。つまり、原則この時間内で解答が導けるように作問されている。このため、共通テストに見られるような複数の地理資料を読み取り考察する問題(思考過程の長い問題)は出題しにくい。したがって、MMTの方が地理的思考力を端的に尋ねている。つまり複雑な問い方や試行錯誤するような出題はされないので、むしろ地理学習のエッセンスを確認しやすいといえるだろう。

以上、共通テストと MMT の比較をしてきた。形式的には両者は類似しているし、内容的にはどちらも地理的思考力を問うている。しかし、MMT は地理的知識の確認問題がやや多く、地理学習のエッセンスをシャープに問われている。大学受験向けの地理学習(共通テスト受験対策)をはじめるとき、基礎力がついた段階で実践演習をはじめることになるだろう。その際、まず MMT 問題を活用することは有効な方策としておすすめである。

【小橋拓司 (2023) : 大学入学共通テストとマルチメディア試験. 国際地理オリンピック日本委員会実行委員会『地理オリンピックへの招待 第 2 版 公式ガイドブック・問題集』, 古今書院, pp.61】を一部改変